

2. 支え合う手と手をつなぐ



2-1 切れ目のない子育て支援

本市の子育て支援策は、不妊治療費や医療費の助成、育児相談、生後6か月の赤ちゃんを対象にしたブックスター

こんにちは赤ちゃん訪問とブックスタート

ト事業、乳児全戸訪問、子育て支援センターによる情報・交流の場の提供など、切れ目のない支援がその特徴で、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」が

NHKの全国放送で取り上げられるなど、全国から注目されています。平成20年度は、医療機関との連携をさらに強化し、一層きめ細かな育児相談の体制を整え、安心して子どもを生み育てられる「切れ目のない子育て支援」を進めます。

2-2 チャイルドサポート

発達障害の子どもに対しては、障害の程度や特徴を早期につかみ、適切な支援を行うことが重要であり、本市の切れ目のない子育て支援と、充実した保育、学校教育の体制により、障がい者の可能性が広がることが期待されています。平成20年度は、福祉と教育部局の連携によるチャイルドサポート(子ども総合支援室)を創設し、健診から保育、教育、就労への一貫性と継続性のある支援に向けた人材育成や支援プログラムの開発を始めます。

2-3 アビレコ活用計画

平成20年度から大安町で運営が始まる「障害者活動支援センター」では、障がい者の福祉的就労に加え、一般就労につなげるアビレコ(Ability Challenge Record: 技能開発履歴)活用計画に着手します。

具体的には障がい者が就業するために必要な技能を開発する計画で、障害者活動支援センター内で所定の訓練を受けた障がい者に対し、いなべ市役所を実習場所として提供し、就業に結びつく可能性のある作業について訓練した履歴(実習記録)を作成します。その履歴をもとに具体的な就職への支援を行う事業です。障がい者が短期的な業務訓練を重ねることによって、個人の特性に合った仕事を見つけ出せるようなシステムづくりを目標とします。

2-4 保育施設の充実

昨年、完成した員弁西保育園は保育の現場からの提案に基づき、新しい理

念と技術を導入した先進的な保育園となりました。平成20年度は山郷幼稚園を廃止し、山郷保育所は5歳児保育も可能な施設として、其原の北勢運動場に建て替えます。また、同保育所には子育て支援センターの併設を予定しており、山郷地区の子育ての拠点として充実を図ります。さらに、老朽化が甚だしい丹生川保育園の建設も予定しており、丹生川地区を縦断する農免道路と一体化した整備を進め、丹生川地区の活性化に貢献するものと考えます。

2-5 民間保育の支援

民間の「いなべひまわり保育園」が大泉の旧法務局員弁出張所に開設され、公立保育園では対応の難しい6か月から3歳までの乳児保育を中心に、特色のある保育を目指します。また、大安中央保育園は乳児保育の充実を図るため、昨年石樽東に新たな「ゆめのみ保育園」を建設されました。平成20年度は、その外周道路を市道として整備します。石樽保育園は平成18年度か

